

# Bookstart Newsletter



2024  
春・夏  
No.84

ブックスタート・ニュースレター



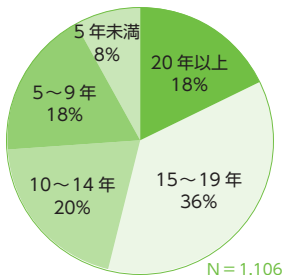
岐阜県各務原市

特集

## 担当を引き継ぐということ

～ 理念と必要性を伝える役割 ～

ブックスタート事業継続年数



※ブックスタート・パックの注文受付に際し、当NPOが事業の実施状況を確認した自治体をもとに集計(2024年2月末時点)

ブックスタート事業が日本で開始してから23年。活動開始から10年を超える自治体は7割を超えました。経験が蓄積され、充実していく一方で、関係者からは「人が入れ替わり、以前より気持ちをひとつに活動できていない気がする」「淡々と進めてしまっている」など、形骸化を心配する声も挙がっています。

事務局担当者には、図書館、保健センター、子育て支援課、市民ボランティアなど、関わる人たちと理念や思いを共にし、実施体制を整えていく役割があります。そのため、まず担当者自身が「なぜ事業を行うのか」ということを理解し、周囲の人と思いを共有する方法を考えていくことが求められます。それは、予算を確実に取り、次年度へ引き継いでいくことにもつながります。

では、どうすれば事業への理解を深め、理念や必要性を伝えていくことができるでしょうか。旧町での開始から23周年を迎える、岐阜県各務原市<sup>かみがはら</sup>取材しました。

初回は23年前、旧川島町

2001年4月、日本で最初にブックスタートを開始した12市町村の一つが、各務原市合併前の旧川島町でした。4か月児健診の1項目として行われた初回には、7人の赤ちゃんが参加し、一人ひとりに読みみかせと共に絵本がプレゼントされました。当時、事務局である図書館で司書をしていた加藤里美さんは、担当者として新聞の取材を受け、「これからも続いていくように頑張ります」と答えています。



親子に絵本を読む加藤さん（2005年）

担当が交代しても  
引き継がれる深い理解

2005年の合併後は子育て支援課（現子育て応援課）に事務局が移ることになり、そのタイミングで、加藤さんも同課へ異動。2009年に他部署へ移るまでの計8年間、ブックスタートを担当しました。そして、2020年に再び子育て応援課へ異動した加藤さんは、現在、課長補佐として予算編成や絵本の選書等に携わっています。

各務原市では、加藤さんが次の担当へ事業を引き継いで以降、ほぼ毎年担当者が交代しています。さらに、合併や予算減額、コロナ禍など、事業を続けていくうえで困難な出来事が度々ありました。それでも継続することができた背景の一つには、歴代担当者の深い理解がありました。「担当自身が、この事業の必要性を認識し、それを周囲に伝えていくことが大切なのだと思います」と、長きにわたり活動をそばで見つめてきた加藤さんは話します。

では、担当者の事業への理解は、どのようなところから深まってきたのでしょうか。

赤ちゃん、保護者、スタッフの間に  
活動の意味が見える

現在の担当は、長縄菜佳さん。2019年に入庁し、2023年度から事業を担当しています。初めてブックスタートを知ったのは、入庁以前、我が子が生まれ、健診で絵本を受け取ったときのこと。当時の感想は、「絵本がもたらえて嬉しいな」だったそうです。

担当になり、前任者と一緒に会場へ向いた長縄さんは、事前準備や当日の役割などの実務をその場で一通り引き継ぎました。その時点で業務は把握できましたが、この事業の意味を心から理解できたのは、ボランティアが親子と



赤ちゃんに手を振る長縄さん

関わる様子を繰り返し見たからだといえます。

「ボランティアさんの読みみかせやちよとした言葉で、保護者や赤ちゃんの緊張がほぐれて笑顔になるんです。そんなやり取りが会場には毎回あります。ボランティアさんや親子の姿から、なぜこの活動が必要なのかということをお自身が教わっています。」

親子とボランティアの関わりを  
サポートする役割も

各務原市では現在15名のボランティアが交替で活動に協力しています。取材当日には3名が参加。長縄さんは、保護者とボランティアが話をしている合間に赤ちゃんをあやしたり、必要に応じて抱っこをしたりと、会場全体の様子を見ながら活動をサポートします。さらに、ボランティアとのコミュニケーションも大切に、積極的に声をかけています。ボランティアも、そんな生き生きとした長縄さんの姿に力をもたっているといいます。

「ブックスタートの仕事が、私にとつては一番楽しくて、癒しなんですよ」と話す長縄さんは、親子とボランティアに心を配りながら、安心・安全な環境を整える役割に徹しています。



大学生もボランティアとして活躍しています (2024年2月)

岐阜市や名古屋市のアクセスが良く、転入者が多い各務原市。同時に核家族化も進行しており、地域につながりをもちにくい子育て家庭が増えています。ブックスタートでは、親子の

### ① 親子を子育て支援事業へつなぐ施策として

「事業を引き継ぐというのは、予算を取ることでもあると思うんです」と、加藤さんは実感を込めて話します。各務原市では、ブックスタート事業における予算要求のポイントが大きく3つあるといえます。それらは子育て応援課全体で共有されるとともに、予算要求の際に、必要に応じて財政担当課に伝えられます。それぞれどのように伝えているか聞きました。

### 予算要求で必要性を訴える

「事業を引き継ぐというのは、予算を取ることでもあると思うんです」と、加藤さんは実感を込めて話します。

各務原市では、ブックスタート事業における予算要求のポイントが大きく3つあるといえます。それらは子育て応援課全体で共有されるとともに、予算要求の際に、必要に応じて財政担当課に伝えられます。それぞれどのように伝えているか聞きました。

### ② 地域の子育て支援力向上のため

状況に合わせて子ども館や親子サロンの情報などを丁寧伝えます。それは、孤立しがちな親子と、市の子育て支援事業とをつなぐ上で有効な手段となっています。

各務原市では、旧川島町で事業を開始した当初から市民が活動に協力しています。大学生からシニア世代まで、幅広い層が参加しているのも特徴です。

同じ地域に暮らす市民が、一組一組の親子と言葉を交わしながら丁寧に絵本を手渡すことは、子育て家庭と地域・行政のつながりをつくると同時に、多くの目で親子を見守る風土づくりにつながっています。

### ③ 一人ひとりの赤ちゃんを対象とした事業であること

数ある自治体事業の中には、成果を上げること終了するものもあります。しかしブックスタートは、赤ちゃん一人ひとりを対象にした事業だからこそ、終わりはありません。これから生まれる赤ちゃんとその保護者に対して、これまでと同じように絵本を手渡し、メッセージを直接伝える意味があることを伝えています。

## VOICE



各務原市子育て応援課  
課長補佐 加藤 里美 さん (写真右)  
長縄 菜佳 さん (写真左)

### 歴代の担当とボランティアさんに感謝 (加藤さん)

どの自治体もそうだと思いますが、市の財政は厳しいです。そうした中で、歴代の担当者が「大事な事業だ」と言い続けてくれたことが、継続につながっています。そして、担当のこうした思いを支え育てているのは、ボランティアさんたちです。これからも、各務原市に生まれる赤ちゃんに絵本を読んでもらう幸せを届けられるよう、この事業を大切に引き継いでいきたいです。

### 活動そのものにメッセージがある (長縄さん)

私自身、二人目の子どもが産まれた頃に、子育てをしんどく感じる時期がありました。そうした経験もあり、少しでも親子のふれあいにつながるような手助けができればいいなと思っています。ブックスタートは、活動自体に子育てを応援するメッセージが込められています。内容をしっかり把握して取り組み、どのような立場の人にも、この事業の意味が伝わっていくと思っています。

\*\*\*\*

23年前、「おひざの上で優しく語りかけてもらう嬉しさを伝えていきたい」と話していた加藤さん。そして、そんな加藤さんと変わらない思いで現在の事業を担う長縄さん。会場でのスタッ

フと親子のやり取りや、そこから生まれる赤ちゃんの多様な表情が、関わる人の事業への思いを醸成し、たとえ担当が交代しても、理解が引き継がれていくのだと感じました。

\* 次ページでは、事業の必要性を関係者に伝える各地の工夫をお伝えします。

# 事業の必要性を 関係者に伝える各地の工夫



東京都  
葛飾区



●図書館 ⇒ ●保健センターへ

## 毎年度「協力依頼の文書」を交わす

毎年度末、事務局の図書館長から保健センター長宛に、事業への協力を引き続き依頼する文書を提出。役割分担のほか、対象者数のデータ提供や交流会への保健師の派遣依頼などを記載しています。

●図書館 ⇒ ●各課 課長へ

## 役職者の会場見学を実施

主管である社会教育課の課長・係長が着任した際、ブックスタート会場を見学する機会を設けています。コロナ後の活動再開も、児童・保育課長の理解が後押しとなり実現しました。

福岡県  
筑後市



●教育委員会 ⇒ ●指定管理者へ

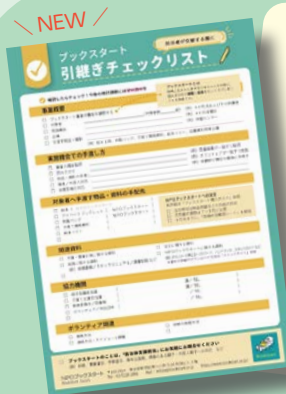
## 仕様書に事業のポイントを記載

2015年の指定管理者移行時、仕様書にブックスタートについて明記。ボランティアと協力すること、読みきかせを行うことなどを盛り込みました。移行後も関係者会議を開き連携して取り組んでいます。  
(写真はボランティア研修の様子)

## 「新担当者向けブックスタート研修会」を オンラインで開催!

日時：2024年5月28日(火) 13:30～14:30

お申し込み・詳細は当NPO  
ウェブサイトをご覧ください▶



## 「引継ぎチェックリスト」を ご活用ください

担当者が交替する際のチェックリストです。新・旧担当者で、事業概要や協力機関、資料等を一緒に確認し、今後の検討課題を共有することができます。ぜひご活用ください。

NPO ブックスタート主催  
いっしょにえほん  
写真コンテスト  
2024 開催!

募集期間  
4月22日(月)  
～5月20日(月)

\*応募はどなたでも!  
\*詳細は当NPOウェブサイト、  
SNSにてお知らせします

## ことのは

NPOブックスタートのスタッフが出合った言葉

最初は安心感を与えてくれる補助輪。いつの間にか必要なくなっている補助輪。必要がなくなったら、邪魔っけにさえる補助輪。親の役割もそんなものかもしれない、と思ったりする。

『ははがうまれる』(宮地尚子 福音館書店)より

親の役割を自転車の補助輪に例え、「必要なくなるほうが、子どもは遠くまで行ける」と語る宮地さん。自転車に乗れるようになった子どもは、「親の願う以上のスピードで、どんどん世界を広げていく」といいます。思春期にさしかかり、風を受け、バランスを崩しそうになりながらペダルを漕ぐ我が子。いつか颯爽と走り去る姿を想像しながら、私も遠くから見守りたいと思います。